

つくばで輝く研究者

Wen-Lin Tung ドン ウェンリン(董琰伶) さん

茨城県立医療大学 保健医療学部 作業療法学科 特任助手

台湾出身。2004年台湾高雄医学大学行為科学大学院作業療法組修了。10年台湾国立成功大学生体工学大学院博士課程修了。博士(工学)の学位を取得。15年茨城県立医療大学作業療法学科嘱託助手、21年から現職。作業療法士を育成する一方、母校の高雄医学大学との交流協定を結び短期留学受け入れや相互の国際交流に尽力している。



高雄医学大学とのリモート交流

『日本と台湾の医療・教育の架け橋』

2015年に県立医療大学作業療法学科の嘱託助手に着任。その年の夏には、母校の台湾高雄医学大学作業療法学科との国際交流をスタートさせ、10人の台湾の学生が1カ月間の短期留学プログラムに参加した。その後、県立医療大学の教員と学生が高雄医学大学に訪問するなど19年までに両大学の交流は10回を数え、コロナ禍ではオンライン授業を企画し高雄医学大学の授業に参加。3Dプリンターで自助具を作成する課題に取り組んだ。「作業療法士の職域や基礎は日

作業療法を通して

台湾との交流に尽力

本も台湾も同じですが、日本は高齢者、台湾は小児と得意分野が異なるため互いに学ぶことが多いはず。多くの方のご協力に感謝しながら、これからも両国の交流に尽力していきたいと思っています」

『念願の留学』
人生の転機

親友がカナダに留学生として移住し流暢(ちよう)な英語を話すのを目の当たりにして、「いつか自分も」と夢見て中学時代。医師である父親の影響で医療に興味を持ち、人に寄り添う作業療法士の道へ。「高雄医学大学は教育への情熱が素晴らしい。博士課程で進学した成功大学は学生への支援が充実しています。多くの学びの機会をいただいたことが、今の自分の原点。その恩返しとして、学生に国際交流の機会を提供したい」。成功大学大学院在学中に念願だったアメリカ・メイヨー・クリニックでの研修の機会を得たが、そこで出会ったのが後に夫婦になる日本人男性。「研

修を終えて台湾で教員になるはずが、なぜか日本(笑)。人生、分らないものですね」。

来日数年で日本語能力試験(JLPT)の最上位、N1を取得した努力の人。今年度は研究や教育、地域貢献、ダイバーシティ推進に貢献する女性研究者・技術者を称える「Idle Women's Award」を受賞するなど、国際交流の取り組みが高く評価されている。

つくばの生活

夫と小学生の長女、長男との4人暮らし。「日本語が分からなくても市役所の職員の方が丁寧に対応してくださるなど、外国人に優しい街だと感じています」。公園が多く、四季折々の美しい景観が気に入る。趣味の料理はプロ級の腕前で、台湾の家庭料理が家族に好評。週末のリフレッシュになっている。



手作りの肉まん